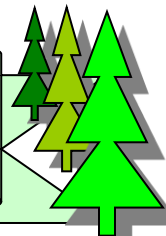




街路樹



対話的な学びについて考える



スクールソーシャルワーカーの活用を

授業の中で、教師の「友達のところに行って、自分の考えを話してきましょう。」という言葉で、子どもたちが自分の考えを書いたノート等を持って、友達に向かって話をするという場面をよく見かけます。その場面は、一見とても活動的には見えますが、その活動の中に学びがあるかどうかを教師はいつも意識していかなばなりません。なぜなら、話すだけでは「対話的な学び」とはならないからです。「子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているか」が大切なのです。『対話的な学び』を実現する子どものイメージ例から確認してみましょう。



また、こうした学びをするためには、「対話する必然性のある課題の設定」「情報の可視化・操作化など思考を深めるツール等の運用」「話を聞き合える関係性の構築」などの授業改善をしていくことが重要になります。

新しい時代に求められる資質・能力は、主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)の視点からの学習過程の質的改善によって育成されます。児童生徒が、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるように、「対話的な学び」について、校内研修においての研修の視点にするなどして、全職員で考えてみてはいかがでしょうか。

[参考] アクティブ・ラーニング「深い学び」実践の手引き

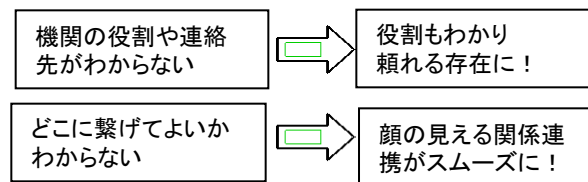


2017年 学校教育法において 職務規定が明記されました。 ～SSWが学校のチームの一員に～

SC(スクールカウンセラー)が、子ども個人の心のケアに重点を置くのに対し、SSW(スクールソーシャルワーカー)は、子どもを取り巻く環境に働きかけます。具体的には、学校や家庭、児童相談所、行政の福祉担当部署といった関係機関のつなぎ役となって情報提供や調整を行ったり、保護者や教員を支援したりするなどして、問題解決の方法を探ります。

いわき市には、9名のSSWがあり、学校からの依頼により派遣をします。学校だけで解決することが難しい家庭の問題(貧困、虐待、面前DV)やいじめ、不登校、暴力行為などの生徒指導上の問題など、心配なことがありましたら、教育支援室へご連絡ください。

SSWの関わりによって



このような変化が見られるようになり、**お互いの役割や関係・連携を理解した体制を構築することができます。**



学級づくり ② 「木を見て 森を見て 木を見る」

2学期が始まって1ヶ月が過ぎました。学習発表会、文化祭、新人戦など2学期の一大行事を控え、これからますます忙しくなります。忙しいときは要注意です。いつもは見えていたところを見落としてしまいがちです。この機会に、自分の学級・学年を念頭に、次のチェックをしてみましょう。

- 明るく元気に声かけしていますか？
- 時間を守り、授業と休み時間を区別していますか？
- 子どもと一緒に給食を食べていますか？ 一緒に清掃をしていますか？
- 子どもが話しかけやすい(相談しやすい)雰囲気づくりに気を付けていますか？
- 放課後に子どもの机、ロッカーをみていますか？
- 目立たない子どもに声をかけていますか？ 人間関係を把握できていますか？
- 掲示物の間違いは確実に指導し、肯定的なコメントを記載していますか？
- 学級のきまりを守らなかった子どもに適切に対応していますか？
- 意図的にほめていますか？「ありがとう」「助かったよ」など感謝の言葉を伝えてありますか？



行事の指導や、手のかかる子に集中していると、「木を見て森を見ず」になりがちです。「森」である学級全体を見渡しましょう。学級としての動きが目に入ってきます。全体を俯瞰した上で改めて「子」を見ると、些細な変化や成長が見えてきます。そこを見逃さず、支援したり賞めたりしていきたいですね。